

第8章 サッカー（フットボール）

スペシャルオリンピックスのサッカー競技は、全てスペシャルオリンピックス公式スポーツルールに従う。国際的なスポーツプログラムとして、スペシャルオリンピックスは国際サッカー連盟（FIFA）の競技規則を基にルールを定めている。FIFAルールがスペシャルオリンピックス公式ルールに矛盾する場合は、スペシャルオリンピックス公式スポーツルールが優先される。

環軸椎不安定の診断を受けたことのあるダウン症のアスリートのサッカー（フットボール）競技への参加は認められない。

セクションA 公式種目

1. FIFA競技規則による11人制チーム競技
2. 5人制チーム競技（屋外）
3. FIFA競技規則によるフットサル競技
4. 7人制チーム競技（屋外）
5. ユニファイドスポーツ® 11人制チーム競技
6. ユニファイドスポーツ® 5人制チーム競技
7. ユニファイドスポーツ® 7人制チーム競技

以下は、初級レベルのアスリートに有効な種目である。

8. 個人技能競技(ISC)

セクションB ディビジョニング

1. チームのディビジョン分けは、競技前に提出されたチーム技能評価表及びクラス分け実技に基づいて行われる。
2. クラス分けの試合において、チームは試合時間8分以上(5人制)、もしくは15分以上(11人制)の最低2回の評価試合を行う。
3. ディビジョニング委員会は、全てのゴールキーパーの技術レベルを正しく評価しなければならない。

セクションC 競技ルール

1. 11人制

11人制は、以下のように修正変更したFIFAにより公式発表された現在のルールに基づいて行われている。

- a. 選手登録サイズ：登録可能な選手は競技委員会にて決定される。世界大会では16名を超えないとしている。
- b. 交代選手：登録選手は全員交代できる。しかし一度交代したらそのゲーム中は復帰できない。比較的初級レベルクラスの場合は、競技委員会がゲームの内容維持

を考慮し適当と判断した場合は例外規定を設けることができる。この場合は一度ゲームから離脱した選手も復帰できる“自由な”交代制を導入できる。どのルールを適用するかは事前に十分に参加チームに知らせておかなければならない。

c . 試合時間

- 1) 競技委員会は試合時間(45分ハーフ基準)をチームの試合競技能力レベルや体力的条件を考慮のうえ調節変更できる。
- 2) その際、最短試合時間は20分ハーフとする。

d . 炎天下では競技委員会から派遣された代表者(競技責任者など)は水分補給のための中断(最大3分間)を各ハーフの中盤で取るようレフリーに依頼できる。

e . 延長・ペナルティキック

- 1) リーグ戦では引き分けで終了する。
- 2) トーナメント方式では延長戦は前後半の「ゴールデンゴール」方式とする。
- 3) 11人制では延長は前後半7分間、休憩1分間とする。
- 4) 延長で勝敗が決定しない場合は、ペナルティキックで勝敗を決する。
 - a) キッカーを各チームから5人ずつ選抜する。
 - b) 各チームの選手は交互にペナルティキックを実施。
 - c) 5回ずつキックの後、得点の多いほうが勝ち。
 - d) 5回のキックで勝敗が決しない場合は、残りの選手(ゴールキーパーを含めた)でペナルティキックを続け、ゴールデンゴール方式で決する。

f . ベンチからのコーチ方法

- 1) 各チームにはベンチエリアが与えられる。
- 2) ベンチエリアは長さ15メートルの長方形内とし、サイドラインから5m離し、センターラインからは10m以内の場所に設けることができる。
- 3) チームベンチは各ベンチエリア内に設ける。
- 4) 交代選手及びコーチは、選手交代時以外はチームベンチに座っていることが望ましい。
- 5) コーチは試合中、声援のみの助言とする。

g . 交代選手及びコーチが相手選手を罵ったり、選手に過度の助言を与えることはスポーツマンシップに反する行為であり、審判は警告をあたえることができる。もし警告に従わなければ、そのコーチを退場させることができる。

2 . 5人制(屋外)

a . 試合フィールド

- 1) フィールドは最大50m×30m、最小40m×30mの四角形とする。より小さいフィールドは競技能力の低いチームが使うようにすると良い。
- 2) フィールドは図のようにマークする。(5人制フィールドの図参照)
- 3) ゴールサイズは約4m×2m。

- 4) 芝生のフィールドが望ましい。
- b. 試合球 (11人制の場合:8~12歳は4号球、13歳以上は5号球)
- c. 試合選手数
 - 1) 登録選手数は競技委員会が決定する。世界大会の場合は1チーム10名以下とする。
 - 2) 対戦する2チームはそれぞれ選手5名で構成され、その内1人はゴールキーパーとする。試合中は各チーム最低3名はフィールド上にいなければならない。
 - 3) 交代は制限なし(一度退場しても復帰できる)。交代はボールがアウトオブプレー、ハーフタイム、ゴール後、インジャリertimeならいつでも可能。コーチは審判員に合図をする。主審が認める合図をしてから交代選手はフィールドに入る。
- d. 11人制の選手用具
 - 1) 上着には背番号をつける。
 - 2) すね当て(レガース)を着用。
- e. 11人制の場合:主審1名
- f. 11人制の場合:副審2名
- g. 試合時間
 - 1) 前後半各15分、ハーフタイム5分。主審は試合時間を守ること。
 - 2) 同点の場合は5分ハーフのゴールデンゴール(サドンデス)延長方式、決着がつかない時は11人制と同様のペナルティキック方式にて勝敗を決する。(11人制の延長・ペナルティキックの項参照)
- h. キックオフ:11人制の場合
 - 1) 他の選手に触れる前にセンターラインより前方に(ボール一個分)蹴り出す。
- i. ボールイン・アウトオブプレー
 - 1) サイドラインを出た場合はキックイン。
 - 2) エンドラインを出たらゴールキックかコーナーキック。
 - 3) ボールが完全にラインを出たらアウトオブプレーとみなす。
- j. ゴールクリアランス
 - 1) ボールがゴールラインを越えたら、相手選手が最後にボールに触れた場合は、ゴールキーパーは自軍へペナルティエリア内からハーフラインを越えない範囲でボールを投げ入れプレイ再開とする。(ハーフラインを越える前にボールがグラウンドや他の選手に触れなければならない) ボールがペナルティエリアを越えたらインプレイとみなす。
現在、FIFAでは、ハーフラインを超えても可にルールを変更中。
 - 2) ゴールキーパーがインプレイ中のボールを手で掴んだ場合も上記ルールが適用される。

3) 反則罰則

- a) ゴールキーパーによって投げられたボールが他の選手に触れることなく
ハーフラインを超えた場合は、主審は相手チームにハーフライン上であ
ればどこからでも間接フリーキックを与える。
 - b) ゴールキーパーが投げ入れたボールがペナルティエリア内で相手選手に
触れた場合は、やり直し。
- k. 得点：11人制ではボールが完全にゴール内のゴールラインを越えてはじめて得点
とする。
- l. 反則行為：オフサイドルールを用いない場合を除く 11人制の場合：トリッピング、
プッシング、ハンドリング、チャージングは直接フリーキック、オブ
ストラクション、デンジャラスプレイは間接フリーキックが相手チ
ームに与えられる。
- 1) 退場となった選手(2回のイエローカード、もしくは1回のレッドカード)はそ
のゲームには再び出場できない。その選手を欠いたチームは、2分間経過以内に
相手が得点しない限り、2分間そのままの人数で試合を継続しなければならない。
- a. 5人対4人で対戦中、どちらかが得点したら、4人制限は解除される。
 - b. 両チームとも4人で対戦中、どちらかが得点したら4人制限は解除される。
 - c. 5人対3人、もしくは4人対3人で対戦中、人数の多いチームが得点したら
3人チームの方は1人加えることができる。
 - d. 両チームとも3人で対戦中は、得点が入れば両チーム共に1人加えられる。
 - e. 人数が少ないチームが得点した場合はそのまま選手数を変えずに試合続行。
 - ・2分間の時間チェックはタイム計測員または控えの審判が実施。
 - ・2分間制限後の交代選手のプレイは主審の同意とボールがアウトに
なってから認められる。
- m. ゲーム再開の例外規則
- ・自軍のペナルティエリア内で自軍に与えられたフリーキックは、ゴールキー
パーのスローインで再開される。
- n. フリーキック
- 1) 全てのフリーキックは相手チームの選手が5m離れてから実施。
- o. ペナルティキック
- 1) 7メートルラインから実施。キッカーとゴールキーパー以外はペナルティエ
リア外に出る。ゴールキーパーはボールが蹴られるまでゴールライン上に
留まっていること。
- p. キックイン(11人制のスローインと同じ)
- 1) ボールが完全にサイドラインを越えたら、最後にボールに触れた選手の相
手のチームがボールの出た場所からキックインする。キックされるまでは
ボールは静止していなければならない。ボールがその1周分動いたらイン

プレイとみなされる。そのボールが他の選手に触れるまではキッカーは再度触れることはできない。相手のチームの選手はキックインの場所から 5m 以上離れなければならない。

2) キックインからは直接得点はできない。

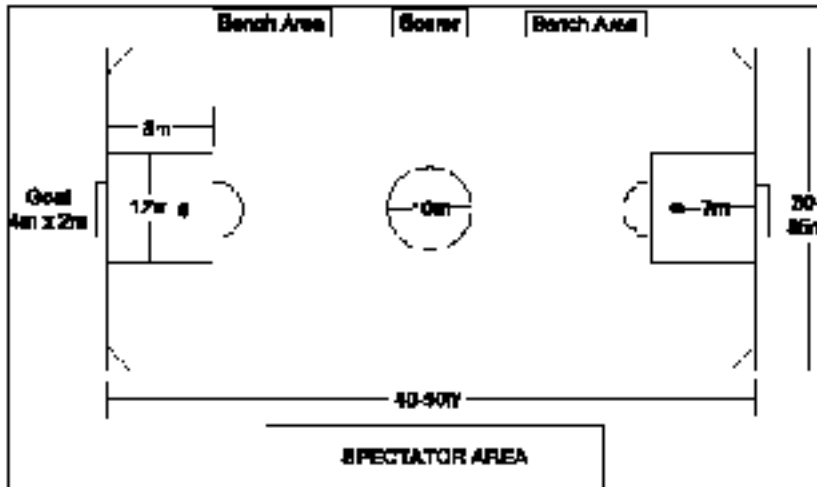
3) ゴールキーパーはキックインされたボールを直接取ることはできない。

q. 反則罰則

1) キックインした選手が他の選手に触れる前に再度そのボールに触れた場合は、その場所で相手チームに間接フリーキックが与えられる。

r. コーナーキック：11人制と同様に、守備側の選手が自軍エンドラインを越えたら相手チームに与えられる。

1) 相手チームの選手はボールから 5m 離れなければならない。



3. 屋内サッカー (フットサル)

現在スペシャルオリンピックス世界大会ではフットサル競技は行われていない。しかし当該国で一般に実施されていれば、その形式による実施を認めている。その場合スペシャルオリンピックスでの競技ルールは FIFA により刊行された最新のルールに従う。

4. 7人制フットボール

a. フィールドのサイズ：長さ 50~70m、幅 35~50m 四方とする。

5人制のピッチと同じ大きさ。通常の 11人制のピッチで 7人制ピッチが二つ分できることになるため、7人制のために新たにスペースの調整をする必要はない。

b. ゴールサイズ：最小 2m x 4m、最大 2m x 5m

日本の少年用ゴールの幅は 5.15m のため、5.15m ゴールの使用を国内においては可とする。

c. 特別ルール：サイドラインからボールを入れる場合はキックまたはスローインの

どちらでもよい。

d . 競技人数：7名

e . ルール：5人制と同じ

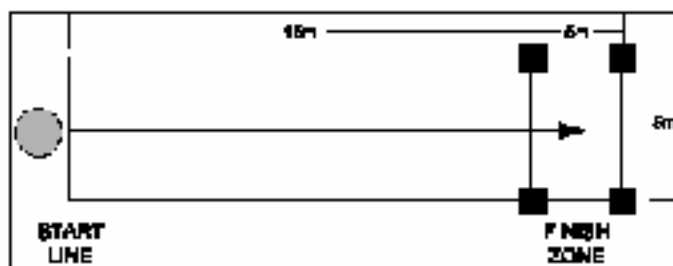
5 . ユニファイドスポーツチーム競技 (11人制、7人制、5人制)

- a . 登録選手はアスリート、パートナー同数とする。
- b . 競技中はアスリート6名、パートナー5名(5人制の場合アスリート3名、パートナー2名)を超えないこと。違反の場合は失格となる。
- c . 各チームには、競技中のチームの指導と選手構成に責任を持つ、競技に参加しない成人コーチを含まなければならない。

6 . 個人技能競技

- ・個人技能競技 (ISC) は、チーム競技に参加できるほどの技術力がまだ無いアスリートや、歩行装具の必要なアスリートのために考案されたものである。
- ・個人技能競技 (ISC) は3部門：ドリブリング・シュート・ランアンドキック
競技者は、まず各種目を一度ずつ実施するディビジョニング予選に参加しなければならない。その総合得点をもとに同じレベルのグループにディビジョニングされ、決勝(メダル)ラウンドへ進む。
- ・決勝ラウンドでは選手は各種目を二度ずつ行う。その総合得点で順位が決定される。

A . 個人種目 種目# 1 : ドリブル



1) 準備

4号球 / 5号球、テープまたはチョーク、フィニッシュゾーン用のプラスチックコーン

2) 方法

選手は決められたゾーン内をスタートラインからフィニッシュゾーンに向けてドリブルを開始する。選手がボールをフィニッシュゾーン内で静止した時点で所要時間を計測する。フィニッシュゾーンを越えてしまった時は、ドリブルして戻り、フィニッシュゾーン内に静止した時点での時間を計測する。

3) 得点

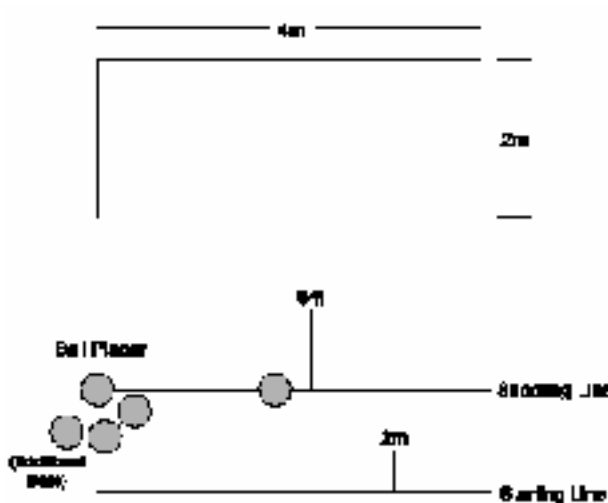
得点換算表をもとに、所要時間(秒)をポイントに換算する。ドリブルレーンの

サイドラインを越える、手でボールに触れるごとに5ポイントを減点する。ボールがゾーン外に出たら、審判は直ちに別のボールを同じ地点の反対側のサイドライン上に置き再開させる。

得点換算表

ドリブル時間 (秒)	点数
5 - 10	60
11 - 15	55
16 - 20	50
21 - 25	45
25 - 30	40
31 - 35	35
36 - 40	30
41 - 45	25
46 - 50	20
51 - 55	15
55以上	10

B . 個人技能競技 種目 # 2 : シュート



1) 準備

ボール5個(5号球または4号球)、テープまたはチョーク、4m x 2mのネット付き5人制用ゴール

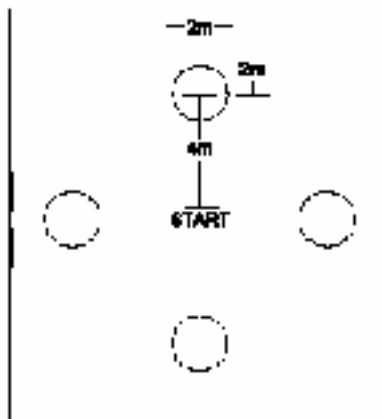
2) 方法

選手はスタートラインからシュートライン上に置かれたボールに向かって走り、1ボールにつき1回だけシュートする。別のボールも同じようにシュートする。2分以内に最後のボールを蹴り終え、計測用時計を止める。

3) 得点

シュート 1 本成功につき 10 ポイントが与えられる。

C . 個人技能競技 種目 # 3 : ランアンドキック



1) 準備

ボール 4 個 (5 号球または 4 号球) 中央にスタートラインをマーク。2 m 幅のゲート (コーンか旗) をボールから 2 m 離れるように 4 つ設置する。

2) 方法

選手はスタートラインから一つのボールを蹴りながら走り、ゲートに向けて一度だけキックをし、再び戻って次のボールをランアンドキックしていく。4 つのボール全てを蹴り終わったら計測終了。

3) 得点

スタートから全て蹴り終わるまでの時間 (秒) を換算表をもとにポイントに換算。ゲートを通過したキックにはボーナスポイント 5 点が与えられる。

得点換算表

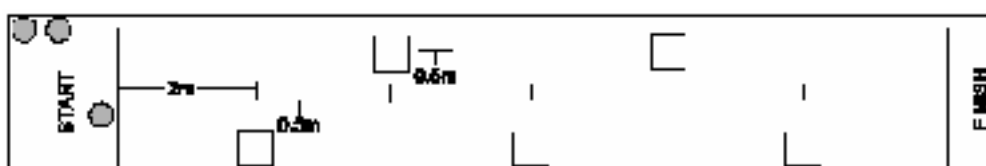
時間 (秒)	得点
1 1 - 1 5	5 0 点
1 6 - 2 0	4 5
2 1 - 2 5	4 0
2 6 - 3 0	3 5
3 1 - 3 5	3 0
3 6 - 4 0	2 5
4 1 - 4 5	2 0
4 6 - 5 0	1 5
5 1 - 5 5	1 0
5 5 以上	5

セクションD - サッカー (フットボール) チーム技能評価テスト

競技の参加しようとするチームは、以下に示される技能評価テストの各プレイヤーの得点を競技委員会に提出しなければならない。

このテストは、競技委員会が参加予定チームの技術水準に関する事前情報を得ることができるようにつくられたものである。テスト会場での評価をもとに、委員会はチームを事前にディビジョニングすることができる。このテストは競技会の成功に重要な役割を果たす。このテストは、技術向上のために行われる唯一のもので、その場で測定、評価を行う。

1. サッカー (フットボール) チーム技能評価テスト ドリブリング



準備

- ・ 12m ドリブルスラローム：5つのコーン(高さ 18 インチ以上)を中央線から 0.5メートル離し、交互に 2m 間隔に配置する。スタートラインに 3~5 個のボールを用意。

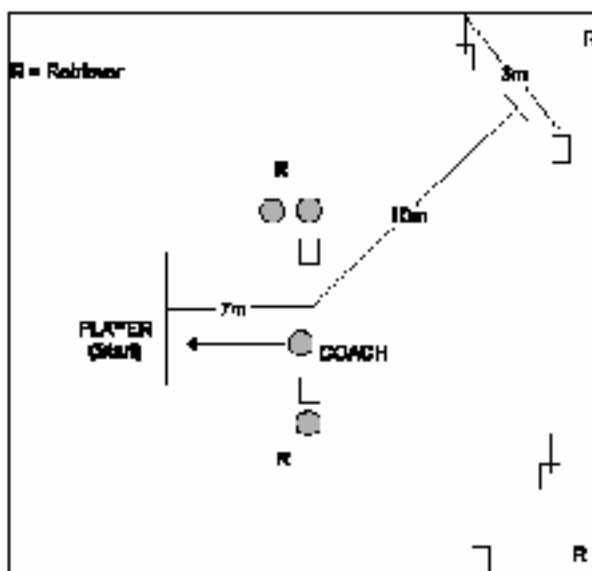
テスト

- ・ 制限時間は 1 分間
- ・ 選手は各コーンの間をできるだけ速くジグザクにドリブルして進む。
- ・ 選手はフィニッシュラインにボールを静止させ、スタート地点に走って戻る。
- ・ 時間が残っていれば、選手は 2 個目のボールで同じ動作を行う。
- ・ 選手は 1 分が経過するまで同じ動作を繰り返す。
- ・ 1 分が経過したら、ホイッスルで合図し終了。

得点

- ・ 選手は 1 コーン通過成功で 5 点獲得。(25 点満点)
- ・ コーンが倒れた場合はカウントしない。

2. サッカー（フットボール）チーム技能評価テスト コントロールとパス



準備

- ・ スタートラインから 7m の地点に 5m 幅の“通過ゲート”を 2 つのコーンで配置。
- ・ 図に示すように、10m 離し 2 つの“目標ゲート” (可能であればコーンと 1m 高の旗を使って) を配置。
- ・ 4～8 個のボールを用意。(もしボールの数が十分でなければ、ボールは 4 個でも良いがその場合は、直ちにコーチにボールを返却できる体制にしておく)

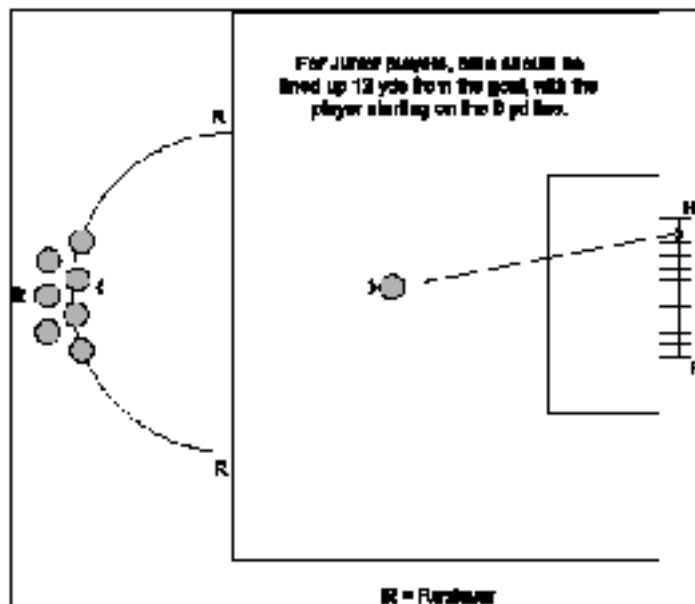
テスト

- ・ 制限時間は 1 分間。
- ・ コーチは待機している選手にゆっくりとボールを出す。
- ・ 選手はスタートライン上で待機する。コーチからボールが出されたらボールに向かって動いてもよい。
- ・ 選手はボールをコントロールし、ドリブルで通過ゲートを通す。
- ・ コーチは目標を指し示すために「左」「右」と呼びかけ、アクションをまじえ指示を送る
- ・ 第一ボール：右 / 第二ボール：左 / 第三ボール：右、等。
- ・ 選手は目標ゲートにボールを通過させる前ならゲートのできるだけ近くまでドリブルで進んでよい。
- ・ コーチは選手がスタートラインに戻ってきたらすぐに次のボールを出す。
- ・ 1 分が経過したら、ホイッスルで合図し終了。

得点

- ・ 目標ゲートへのボールパス成功につき 10 点。
- ・ ボールがコーンに当たってもゲートを通すれば得点は認められる。

3. サッカー（フットボール）チーム技能評価テスト シュート



準備

- ・ 規定フィールド、ネット付フルサイズゴールとペナルティエリア。
- ・ 4～8個のボールをペナルティエリア円の最前に配置(ボール数が十分でなければ4、5個でボールの回収が素早くできるようにしておく)

テスト

- ・ 選手はペナルティスポット上からスタートし、1番目のボールめがけて走り、ボールをとる。ドリブルでペナルティエリア内に入り、シュートする。出来るだけボールが**空中に浮く**シュートを試みる。
- ・ シュートはペナルティエリア内であればどこからでも可。
- ・ シュートが終わり次第、スタート地点に戻り、同じ要領で繰り返す。
- ・ 1分間経過したら、ホイッスルで合図し終了。

得点

ボールが**空中に浮く**シュートでゴールした場合 10点。ゴールに達する前にボールが地面に触れた場合は5点を与える。

<スペシャルオリンピックスのスポーツプログラムを実施するに当たっての留意点>

スペシャルオリンピックスの正式なスポーツプログラムとして活動する場合には、事前に最寄りの地区組織事務局、又はスペシャルオリンピックス日本本部事務局にご連絡ください。